

立命館大学 国際関係学部

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL: 075-465-1211 E-mail: irpost01@st.ritsumeai.ac.jp



先生方のプロフィール、先輩のメッセージなど
最新の情報はこちら

www.ritsumeai.ac.jp/ir/



RITSUMEIKAN UNIVERSITY 立命館大学

国際関係学部

College of International Relations | Ritsumeikan University

2023



Window to the World.

日本から地球を、地球から日本を見る。

Message from Dean

学部長メッセージ

最先端を走り続ける。

国際関係学部 学部長
西村 智朗

現代はグローバル化社会と言われています。毎日世界中で膨大な量のヒトやモノが移動しています。SNSなどのインターネットの普及やオンライン会議ツールなどの登場によって、情報やコミュニケーションのボーダレス化もますます加速しています。世界はますます「身近」になったと言えるでしょう。しかしながら、世界には解決されていない問題もまだまだ山積しています。領土や資源の奪い合い、深刻な人権侵害や難民問題、温暖化や海洋汚染などの環境破壊、貧困や格差問題、最近では感染症などが挙げられます。これらの問題は、「グローバル」な問題であると同時に国家や国際機関で協力・調整が必要な「国際的」な問題でもあります。

これらの問題は、それぞれ複雑な原因を抱えており、解決のためには様々な要素を検討しなければなりません。社会科学の分野においても、政治学、法律学、経済学、社会学など既存の伝統的な学問領域を横断した研究が必要になります。加えて、先ほど触れた「身近な世界」は、同時に「多様な世界」でもあります。アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアや大海の小さな島々など、それぞれ独自の文化や習慣、言語や宗教が存在します。これら地域の伝統や生活を尊重す



ることも大切です。そのための情報の収集や意見の発信には、英語をはじめとする語学力も重要になります。

すなわち、このような課題に取り組むためには、学際的な知識と世界各地の特殊性を理解し、高度な語学力を駆使する人材が求められています。

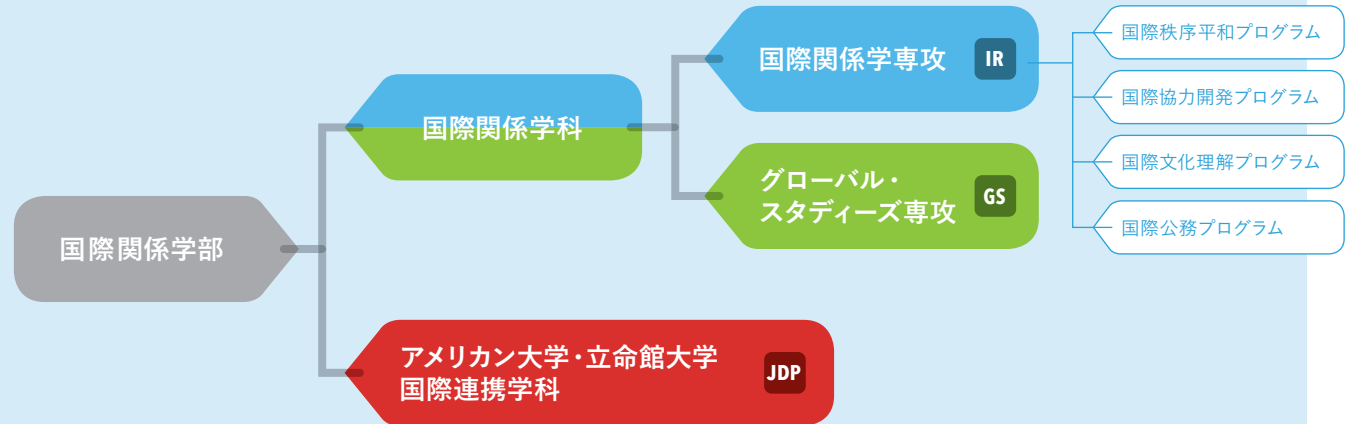
立命館大学国際関係学部は、このような国際社会の様々な問題を認識・共有し、その解決策を考え、世界で活躍する人を育成することを目指しています。そのために、本学部には、国際関係の理論を学ぶ多彩な専門科目、世界を網羅する地域研究、そして実践的な英語力とその他国連公用語をカバーする語学教育、すなわち「理論×地域×言語」の三つを究めるための優秀な教授陣が揃っています。この三本柱が、本学部の教学の特徴です。

立命館大学国際関係学部は、まだ米ソ冷戦が終結していない1988年に設立され、日本における国際関係学の先頭を走ってきました。2011年には、従来の日本語での教育を中心とする国際関係学専攻に加え、英語による教育を中心とするグローバル・スタディーズ専攻を新設しました。2018年には、アメリカン大学・立命館大学国際連携学科（JDプログラム）を設立しました。JDプログラムの日本で学修をスタートする学生は、1年半を京都、2年間をワシントンD.C.、そして最後の半年を再び京都で学びます。このように、本学部では、多くの日本人学生と世界中から集まった国際学生が、日本の伝統文化が息づく古都・京都で交流し、切磋琢磨しています。

設立から30年以上を経て、8000人を超える卒業生を送り出していることも本学部の強みです。これまで多くの卒業生が、日本だけでなく世界各国で、民間企業、公務員や国際機関職員、教育研究機関やNPOなど様々な業種で社会に貢献しています。私たちは、これからも、個を磨き、世界に羽ばたく学生を応援していきます。

Departments, Majors & Programs

学科・専攻・プログラム



IR GS 国際関係学科

国際関係学部は、世界各地の学生が高い志を持って集う多文化共存の空間です。多様なバックグラウンドを持った、学生、教授陣が集っています。国際的に教育・研究・社会貢献を行う教員、国際社会のさまざまな分野で活躍してきた客員教授、そして、日本で数人しかいない珍しい専門領域を持つ教員たちから新たな発見や閃きを得

ることができるでしょう。多文化が融合する空間で学び、国際的な感覚と知性を磨き、世界が求めるグローバルな見識と行動力を養います。現代の国際社会が抱える問題を多面的に探求し、既存概念にとらわれずに自分の頭で考え、問題解決に挑みます。主に日本語で学ぶ国際関係学専攻と英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。

多くの科目で、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。クロス履修システムを活用することで、国際関係学専攻の学生は関心ある科目を英語で学ぶことができ、グローバル・スタディーズ専攻の学生は日本語による科目を受講することができます。

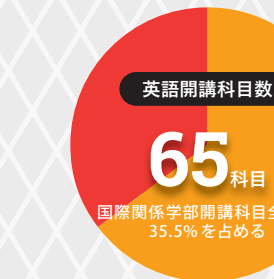
JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

1994年、国際関係学部は日本国内で初めてDUDP（デュアル・ディグリー・プログラム）を導入しました。そこからスタートしたアメリカン大学との長年に渡る教員の相互派遣や教員および職員間の交流を経て、2018年には、DUDPをさらに進化させた学部レベルでは日本初となる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を

アメリカン大学と共同で開設しました。プログラムでは、西欧中心に築かれた学問体系である「国際関係学」を、さらに日本を含む非西洋の視点を取り入れ発展させた「グローバル国際関係学」の修得を目指して京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、単一の共同学位（BA in Global IR）を取得します。

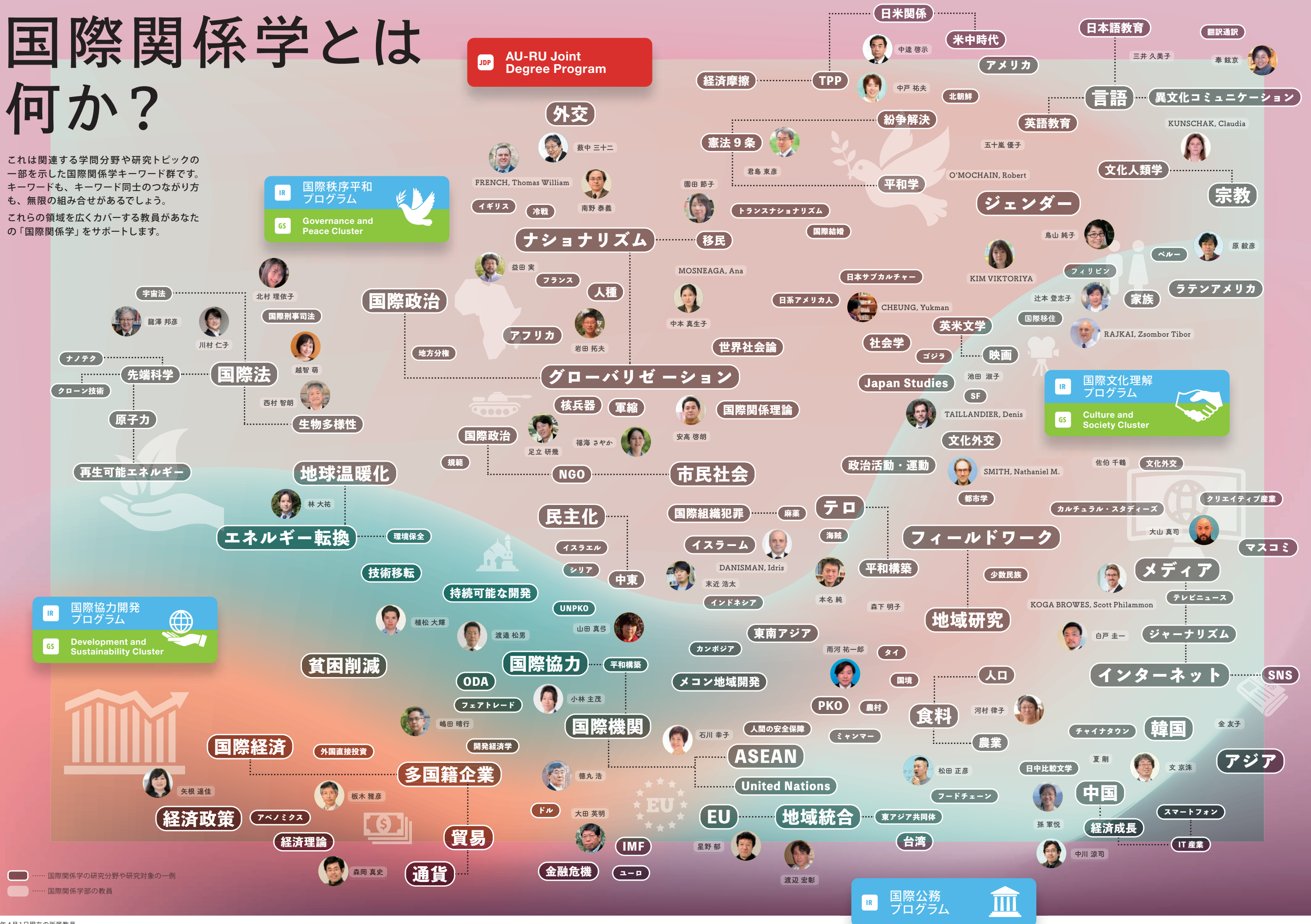


IR AT A GLANCE | 数字で見る国際関係学部



これは関連する学問分野や研究トピックの一部を示した国際関係学キーワード群です。キーワードも、キーワード同士のつながり方も、無限の組み合わせがあるでしょう。

これらの領域を広くカバーする教員があなたの「国際関係学」をサポートします。



多文化が融合する空間で学ぶ。

国際関係学科

Department of International Relations

国際関係学専攻

International Relations Major

IR

国際秩序の動態を歴史、法、政治、解決・実現方法の四つの角度から学ぶ「国際秩序平和プログラム」。持続可能でバランスの取れた国際協力や開発のあり方を学際的、体系的、実践的に探求する「国際協力開発プログラム」。国際社会の政治・経済構造と文化の関係、異文化理解の方法、異文化衝突の問題などを学び多文化共生の道を探る「国際文化理解プログラム」。国際機関、国家および自治体の公務行政について学ぶ「国際公務プログラム」。個々の関心事に沿ったプログラムを選択し、より専門的に深めていきます。



国際秩序平和プログラム

国際社会のダイナミズムを学び、新しい国際秩序のあり方を探る

国際秩序の歴史と現在、そして新時代の展望を、国際政治・国際関係論・国際法・国際経済などの分野から総合的に学修。戦争・平和・人権から、紛争や経済摩擦まで、幅広い問題を解決するための新たな手法を探ります。



国際協力開発プログラム

持続的な社会と経済発展を両立する国際協力・開発援助のあり方学ぶ

途上国の現状や国際協力・援助など、国際的な社会・経済発展の条件や貧富の格差の問題を実践的に学修。政府や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの活動も視野に入れながら諸問題の解決策を探ります。



国際文化理解プログラム

高度な異文化理解力を身につけ、共生社会の実現にアプローチ

グローバル化が進む現代において、多様な文化や価値観を尊重しあい、共生社会を育てて行くことは重要なテーマです。さまざまな文化や社会を比較考察し、多文化共生の道を探ります。



国際公務プログラム

国際関係の学びを国内外の行政キャリアへと繋ぐ少人数教育

外交官をはじめとする国家公務員や国連職員、地域を支える地方公務員など、行政を担うキャリアをめざす学生が切磋琢磨しながら、グローバルな公共政策や国内外の行政に関する実務と理論を学びます。



グローバル・スタディーズ専攻

Global Studies Major

GS

2011年に開始した「国際関係学」を英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。開設当初は1学年60名でスタートしましたが、学生や社会からの強い要望に応え、2018年からは1学年100名に定員を拡大しました。今では約30カ国から集まる学生と11カ国から集まる教員が多様な文化を抱える学びの集団を形成しています。2018年度カリキュラム改革を経て、プログラム間の境界を越えて自由に科目を選択できる、より学際的なコースを提供します。

This major seeks to stimulate a systematic learning, while going beyond the borders of academic, scientific, disciplines. The program is designed to be flexible, with students able to design their learning programs based on their interests and career goals. The program puts a focus on courses related to Japan and Asia and has increased these courses. In the first year, students take a range of introductory and foundation courses as well as academic skills courses, which develop a foundation for their studies in English. From the second year, students start their study of core courses choosing from a mixture of 3 clusters detailed below.



Governance and Peace Cluster

International Law, Security Studies, Global Political Economy, Comparative and Global Governance, Peace and Conflict Studies, International Organization, International Human Rights, Advanced Topics in International Relations



Development and Sustainability Cluster

Development Studies, Global Environmental Issues, Microeconomics, International Trade and Investment, International Finance, Global Civil Society and Development, Advanced Topics in International Relations



Culture and Society Cluster

Race and Ethnicity in the Modern World, Media and Society, Cultural Awareness and Communication, Global Sociology, International Migration, Topics in Identity, Advanced Topics in International Relations



国際政治の中枢で学ぶ。

アメリカン大学・立命館大学 国際連携学科

JDP

American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

アメリカン大学と立命館大学が共同で開設する国際連携学科(ジョイント・ディグリー・プログラム)では、京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、共同学位(学士「グローバル国際関係学」)を取得します。世界の動きを肌で感じながら、専門分野に加えて語学力を伸ばし、国際感覚を培うことができます。アメリカン大学は、国際関係学において全米9位(学部)*。1963年の卒業式では、ケネディ大統領が「平和の戦略」の演説を行う等、オバマ大統領をはじめとする歴代の大統領が訪れる大学です。日本の伝統文化と革新の気質が融合する京都と、激動の政治の中心に位置するワシントンD.C.。二つの都市での学びは、歴史・文化そして国境を超えた人との交わりを可能にし、世界中の人々とのネットワークを築き、グローバル・リーダーの精神を育みます。

*Foreign Policy Magazine (2018)のランキング



グローバル国際関係学とは

JDPでは、西洋の国際関係学の枠組みを超えた、「グローバル国際関係学」を修得することを目指しています。これまでの「国際関係学(IR)」は、西洋、とりわけ英米的視点によって発展してきましたが、国際社会の多元化に伴い非西洋的視点の必要性が国際関係学の世界でも主張されています。こうした状況のなかで、非西洋社会に位置しつつも西洋をモデルとした近代化を成し遂げた日本社会において、西洋および非西洋という二項対立的視点を越えた新たな国際関係学を学ぶ意義と必要性が高まっています。アメリカと日本、二つの視点から国際関係学を考えていく新しい挑戦です。

ラーニングスケジュール

立命館大学から学修を開始する「RU Home Students」は、入学後、最初の1年半を立命館大学で学びます。授業は全て英語で行われ、国際関係学部在籍する多くの留学生や、立命館大学で学修中のアメリカン大学の学生と共にグローバルな環境下で学びます。2回生の秋学期からアメリカへ学ぶキャンパスを移動し、4回生春学期までの2年間をアメリカン大学で学びます。4回生の5月末ごろに日本へ帰国、4回生の秋学期にもう一度立命館大学で学び、最後の1学期で4年間の集大成である卒業研究をまとめ、卒業します。

学修支援プログラム

JDPは、学生が4年間で二つの大学で学び、一つの学位を共同で授与されるこれまでにないプログラムです。プログラムでは、参加学生が着実に充実した4年間で過ごすため、様々なサポートプログラムを用意しています。米国の大学に直接進学する場合に比べて、英語能力向上の支援や進路・就職面のキャリア・サポートなど、日本の大学ならではのサポートを受けることができると同時に、アカデミック・アドバイジングといった日本の大規模大学では珍しい、国際基準の学修サポートが実施されます。

1年目		2年目		3年目		4年目	
1 SPRING	2 FALL	3 SPRING	4 FALL	5 SPRING	6 FALL	7 SPRING	8 FALL
立命館大学	立命館大学	立命館大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	立命館大学
Core/Foundation/Cohort Courses					Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		Senior Capstone Program (Seminar)
Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)		Research Methods					
Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses					

R

BY COURSEWORK

立命館大学
HOME

Timeline

充実した学部での学びを実現する上で、4年間の学びの流れを理解し、プランニングする。そして、どのように自分だけの学びとキャリアにつなげていくか思い描く。国際関係学部でどのような4年間を過ごしていくかは、あなたの無限の発想力と行動力次第。

4年間の 大学生活の設計

4年間の学びのプランを立てましょう。国際関係学部での学習、留学、課外活動、資格取得、就職活動などについて、4年間の中でいつ、どのように取り組むのか。現時点での目標を明確にし、スケジュールを立てましょう。



プログラムごとに専門分野の主要概念を学びながら、英語の4技能を修得。グループワーク、プレゼンテーション、ディベート、クラス全体でのディスカッション等を行います。

専門分野の基本文献の精読に挑戦します。担当教員のサポートを受けながら、文献を読み込むトレーニングを行います。

専門演習や専門科目を通じて 専門的知見を深める

国際関係学部の学生は3年生から卒業まで、「専門演習（ゼミ）」を履修します。2年間、同じ担当教員のゼミに所属し、自分の興味ある分野を、興味を同じくする仲間と共に学び、学修の集大成である卒業研究の作成に必要な力を身につけていきます。



就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。

Start!

1 回生

3 回生

4 回生

1 回生 春学期

1 回生 秋学期

2 回生 春学期

2 回生 秋学期

3 回生 春学期

3 回生 秋学期

4 回生 春学期

4 回生 秋学期

- First Year Retreat
- 基礎演習

- ブリッジ科目（BIS）の履修
- 国際関係学セミナーの履修
- グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）の履修

- 就職活動

★プログラムに所属
※IR専攻のみ

★専門演習（ゼミ）の履修

★卒業研究の作成

ゼミ形式で、大学での学び方や研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。

国や国際機関といったアクターに扮し、国際政治や国際経済の大きな動きの中で「政策立案」、「交渉過程」などのプロセスを擬似的に体験することで、国際関係の動きを学びます。

First Year Retreat

4年間の学びの計画を立てるため、丁寧なオリエンテーションが行われます。2年生からのプログラム選択やゼミ選択、また留学等の様々な学びの機会や将来の進路選択等について、学部の教職員やOB/OGの先輩たちとともに模索し、「学びと成長」の礎を築きます。



基礎演習/Introductory Seminar

自分とは違った視点を知り
知識や技量が向上していくのがわかる

下田 千偉さん（IR専攻2年生）



1年を通して何回もグループ発表の準備、発表、レポート執筆を繰り返すため、自分の技量や知識量が次第に向上していくのがわかります。基礎的な知識を体系的に学び、「ポピュリズム」や「多文化主義」など、なんとなく理解していた概念を、より深く具体的に理解できるようになりました。また、自分では思いつかないような他のメンバーの意見を知ったり、自分の考えや知識が間違っていたとわかったり、メンバー同士の仲が深まっていくのを感じます。

2 回生

プログラムに所属*し
国際関係学の基盤を築く

※IR専攻のみ

プログラムごとの専門科目の履修、専門的な英語運用能力を養うための科目の履修が始まります。これらの科目の履修、授業外での様々な活動を通じ、国際関係学の基礎を習得しましょう。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）

ノルウェー外務大臣として
SDGs条約の締結に奔走

クロス ジェイミー 俊也 さん（IR専攻3年生）



SDGs先進国・ノルウェーにとって、石油の輸出はめめられるものであるはず。しかし、ノルウェーの立場に立ってみると、石油の輸出は国の収入の大半を占めており、他のSDGs目標達成のための改革を進め、国際社会で存在感を示すためには、欠かすことのできないリソースなのです。ノルウェー外務大臣になりきって演じ、ノルウェーの歴史を知り、強みや弱みを理解することで「国際問題に向き合うとはどういうことか」を学びました。

キャリア支援教育

行政、メディア、民間企業といった各業種に対する理解を深める「プロフェッショナル・ワークショップ」、実践にこだわらず、原理的・理論的に自らのキャリア問題を捉える「キャリア・デザイン」など、キャリア形成を見据えた正課科目を開講しています。



専門演習/Advanced Seminar

法、政治、歴史、ジェンダー、
あらゆる視点から平和について考える

青葉あずき さん（IR専攻4年生）



私の所属する君島ゼミは「地球社会を平和学する」というテーマのもと、法、政治、歴史、ジェンダーなどのあらゆる視点から平和について考えており、私はキューバ・ミサイル危機を事例として、外交における紛争回避の可能性を調べています。君島ゼミは国内外の大学との交流も盛んで（中国・復旦大学、韓国・キョンヒ大学、上智大学、同志社大学など）、他大学の国際系学部の学生と意見交換をすることができました。

4 回生

4年間の集大成
卒業研究の作成

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となるもの。国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

卒業研究/Graduation Research

過去から現在までの国際社会の知識を深め
広い視野と情報収集力を身につけた

櫻井 誠仁 さん（IR専攻2021年度卒業）



スペインの労働市場問題をテーマに、3年生の後期から卒論の執筆を開始。文化、法律、地理などの歴史的問題、それに加え、AI化、新型コロナウイルスなどの新たに発生した要因が問題に拍車をかける形になっており、過去の文献だけでなく、日々のニュースやスペインに類似する国の事例を集め、視野を広く持つことを意識して論文を作成しました。国際社会全体の知識を深めることができ、また、多角的な視点から情報を収集し精査する力も身につきました。

Courses

クロス履修システム

両専攻では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講。各専攻の学生は、他専攻の科目を半分近くまで履修可能です。

IR 国際関係学専攻	基礎演習 国際関係学 国際連合入門 平和学入門 法学 経済学	政治学 社会学 言語学 文化人類学 English for International Studies (EIS) 初修外国語	国際経済学 国際政治学 国際文化・社会学 地域研究論 グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)	国際関係学セミナー Bridge to International Studies (BIS) Intensive English (IE) 国際法 国際協力論 途上国政治論	欧米政治史 国際ジャーナリズム論 比較文化論 プロフェッショナル・ワークショップ 東南アジア研究	ヨーロッパ研究 北アメリカ研究 東アジア研究 アフリカ研究 ラテンアメリカ研究 中東研究	専門演習 国際人権法 国際機構論 比較政治論 地域開発論 開発経済論	安全保障論 開発と食料 開発政策論 メディア・文化論 文化交流史 宗教と国際関係	国際貿易投資論 国際金融論 環境経済論 比較家族論 異文化コミュニケーション論 卒業研究 など
----------------------------------	--	---	--	---	---	--	--	--	--

日本語開講

GS グローバル・スタディーズ専攻	Introductory Seminar Theories of International Relations Introduction to United Nations Introduction to Peace Studies Politics for Global Studies	Economics for Global Studies Sociology for Global Studies Academic Skills (AS) Kyoto and the Japanese Arts Macroeconomics	Global Simulation Gaming (GSG) Global Studies Seminar Introduction to Area Studies International Law Security Studies	Global Political Economy Development Studies Media and Society Microeconomics Global Environmental Issues	Cultural Awareness and Communication Race and Ethnicity in the Modern World Advanced Seminar Peace and Conflict Studies	International Human Rights Research International Organizations International Finance International Trade and Investment	Global Civil Society and Development Global Sociology International Migration Topics in Identity	Advanced Topics in International Relations Graduation Research など
---	--	--	--	--	---	--	--	--

英語開講

JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科	立命館大学（京都）で受講する科目 立命館大学から学修を始める際の一例。学習スケジュール、選択する分野などによって選択できる科目は異なります。 Introductory Seminar Theories of International Relations Macroeconomics Microeconomics Japanese Culture Introduction to the United Nations Comparative and Global Governance Introduction to Gender Studies Security Studies Japanese Politics Japanese Society Japanese Economy Japan-United States Relations Advanced Seminar Graduation Research	アメリカン大学（ワシントンD.C.）で受講する科目 SISU-106 First Year Seminar SISU-206 Introduction to International Relations Research SISU-212 China, Japan and the United States SISU-306 Advanced International Studies Research SISU-312 Governance, Development, and Security in Asia SISU-359 Environment, Conflict, and Peace SISU-368 Differences and Similarities in Conflict Resolution SISU-380 Topics in Global and Comparative Governance SISU-393 International Relations Theory
---	---	---

外国語の選択

（国際関係学科）

日本語を母国語とする入学者は、英語と初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語のいずれか1語種）を、留学生は英語と日本語を学修します。また、希望する学生は3回生以降、国連公用語であるアラビア語、ロシア語を履修することが可能です。

基礎演習

Introductory Seminar

1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方、研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習のクラスは4年間を共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生などが生活・学修の両面をサポートします。

基礎科目と基幹科目

General Education Courses & Foundation Courses

IR専攻では、法学、政治学、経済学など、GS専攻では、Politics for Global Studies などにより、国際関係学「理論」の基礎を築きます。

グローバルエデュケーションを支える

国際英語プログラム

TOEFL®およびCEFRの国際標準規格を基にした能力別クラス編成（25名まで）を行い、専攻ごとに用意されている科目、English for International Studies (EIS)、Bridge to International Studies (BIS)、Academic Skills (AS)、Intensive English (IE) で英語による専門講義の履修（クロス履修）と交換留学に備えます。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング

Global Simulation Gaming (GSG)

IR専攻とGS専攻を統合し、2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。

国際関係学セミナー（IRセミナー）

Global Studies Seminar (GSセミナー)

IR専攻の四つのプログラムに制限されることなく、自由に選択した分野を、より専門的に学び始めます。IR/GSセミナーでは、担当教員のサポートを受けながら、各分野の古典や基本的文献の購読や読み込むトレーニングを行います。



専門演習

Advanced Seminar

3・4回生を通じて所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。すべての学生がゼミ（専門演習・Advanced Seminar）に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタームペーパーを作成します。

地域研究科目

Area Studies Courses

専門分野および研究課題を選択するとともに、具体的にその分野に関与する特定の「地域」に焦点を当て、他の地域（多くの場合、日本）と比較しながら、研究課題をさらに深く掘り下げます。その範囲は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本、アジア、東南アジア、中東、アフリカなど、オセアニアを除くほぼ全域に及びます。

固有専門科目

Core Program Courses

国際関係の諸側面に関わるさまざまな専門科目を設置しています。なかでも3回生以降は、比較政治論、国際機構論、開発政策論、メディア文化論、International Organizations, Global Civil Society and Development, Global Sociologyといった、各プログラムや各クラスターにおける理論を深く学びます。これらを通して複雑なグローバル社会を総合的・立体的に把握し、自らの問題意識の醸成に繋いでいきます。



卒業研究

Graduation Research

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

キャリア選択と支援

就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。就職活動中は東京や大阪のキャンパスでも支援が受けられます。オンキャンパスで行われる就職セミナーや企画も多数開催しています。また、国際連携学科の学生は、ワシントンD.C.においてさまざまな企業の就職のワークショップに参加できると同時に、日本からも支援を受けることができます。

クロス履修システム

議論形式の講義、外国人学生との出会いが刺激的

瀧 彩音さん（IR専攻4回生）

Voice

日本語開講講義と教授や講義名が同じであっても、英語開講講義では議論形式の講義になっているなど、授業形態が大きく異なる場合があります。一緒に講義を受ける外国人学生との出会いもクロス履修ならではのおもしろい体験です。議論力、コミュニケーション能力が培われ、またプレゼンなど発表する力も身についたと思います。

Global Education



英語科目 /Academic Skills/Intensive English

国際関係学部では、学科や専攻、学年に合わせて様々な英語の授業を開講しています。

国際関係学専攻の学生が1年次に受講するEnglish for International Studies I～IVは、国際関係やそれに関連のある内容の教材を使用し、総合的な英語運用能力を修得することを目的とした科目です。2年次には、英語で国際関係学の専門分野を学ぶための力を養うためにBridge to International Studies I～IIIを受講します。入学してから2年間継続して英語を学ぶことにより、英語で開講される授業や交換留学に備えることができます。

また、グローバル・スタディーズ専攻と国際連携学科の学生は1年次にAcademic Skillsという授業を受講します。これは英語で国際

関係学の科目を受講するために必要なアカデミック・スキルを養うための授業です。

これらの授業はTOEFL®およびCEFRの国際基準規格を基にして能力別にクラス編成がおこなわれているため、自分のレベルにあったクラスで効果的に英語力を伸ばすことができます。

これらの英語科目に加え、主に交換留学を希望する学生に向けて、英語の苦手分野を克服することに重点を置くIntensive Englishという科目もあります。語彙と読解、スピーキングとリスニング、ライティングと文法という3つのクラスがあり、選考の上、自分の苦手分野の授業を受講することができます。

充実した留学体験のために 徹底的に語学力を磨く

西田 七海 さん (IR専攻2年生)



ドイツへの留学を目指しており、入学が決まったらすぐに語学試験(TOEFL®、IELTS)の勉強を開始。留学を充実したものにするため、キャンパスで、街中で、オンラインでと、日常的に英語を話す環境を作るために工夫を重ね、あらゆる方法で語学力アップの努力を続けています。授業では留学希望者向けのIntensive Englishのほかにクロス履修システムでAcademic Skillsを受講、またCross Cultural Encountersでは異文化コミュニケーションについて学びました。

クラスメートに刺激され 本気で英語に取り組む

横尾 洋昌さん (IR専攻2年生)



English for International Studiesの授業で一番レベルの高いクラスの所属になり、クラスのほとんどが英語を流暢に話す中、スピーキングが苦手で日々悔しさを感じていましたが、普段から英語で物事を考える癖をつけ、英語で独り言を言う、動画配信の映画を英語で見るなど、英語を体に染み込ませる努力を続けた結果、TOEFL®スコアは40点ほど伸び、授業でも積極的に発言できるように。現在も、将来総合商社で働くために必要な英語力の向上に努めています。



ライティング・チュートリアル・プログラム

ライティング・チュートリアル・プログラムとは、日々の授業でのレポート・論文の執筆や、大学の学修の集大成である卒業論文を執筆するために必要な「アカデミック・ライティング」を身につけるための個別サポートプログラムです。

国際関係学部では、2018年度カリキュラムより「卒業研究(卒業論文)」が必須となりました。質の高い卒業論文を書くのに必要なアカデミック・ライティングのスキルは、学習と経験の積み重ねにより身につきます。国際関係学部ではその1つの機会として、日本語と英語のライティング・チュートリアルを実施しています。論文作成経験が豊富な国際関係研究科の大学院生及び国際関係学部の上回生(チューター)と1対1で授業の課題レポートに共に取組み、アカデミック・ライティングのスキルを磨いていきます。

このプログラムでは、チューターが学生のレポートを書き換えることはしません。学生がより良いレポート・論文の自立的な書き手になるようにアドバイスをします。

チューターは、チュートリアルを効果的に行えるよう研修を受けています。また、チューター研修には1回生の授業を担当する教員も参加し、授業の課題レポートにおける重要な点についてチューター

と意識合わせを行います。

ライティング・チュートリアル・プログラムを利用した学生を対象に実施したアンケートでは、97%の学生が「また利用したい」と回答しています。

レポートが苦手な人も、得意な人も 親身なアドバイスでスキルアップ

上田 琴音さん (国際関係研究科・国際関係学専攻2年生)



チューターとして、相談者とテーマを一緒に考える、参考文献の探し方を伝える、完成したレポートの論理性や全体の整合性に関するアドバイスをを行う、などの活動を行っています。大学院や学部の先輩からアドバイスを受けられるので、相談しやすく感じてもらえそうです。レポートが苦手な人だけでなく、得意な人も、客観的な立場から意見をもらい、自分では気がつかなかった改善点を見つけることができます。

[全学募集] 海外留学プログラム

留学の目的や意義は一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されています。2019年度には144名の国際関係学部の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航をする学生も多数います。留学準備は国際教育センターが丁寧にサポートし、危機管理についても事前に情報提供を行います。

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況等に応じて、プログラム実施の有無等に変更が生じる場合があります。最新の情報は必ず募集要項にて確認してください。

長期留学プログラム

| 半年～2年間

語学力を高めながら、外国語による講義を受けるプログラムや、正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラムがあります。正規の学部留学の場合は、現地の正規学生と同様に授業を受け、単位取得を目指します。多くの国際関係学部生が長期留学に参加しています。

代表的な留学プログラム

- 立命館・UBCアカデミック・イマージョン・プログラム
留学期間：8ヵ月
留学先：カナダ
- 交換留学
留学期間：半年～1年間
留学先：世界32カ国・地域・146大学
- ASEANで学ぶ国際PBLプログラム
留学期間：4ヵ月～5ヵ月間
留学先：インドネシア・タイ
- DUDP(学部共同学位プログラム)
留学期間：2年間
留学先：アメリカ

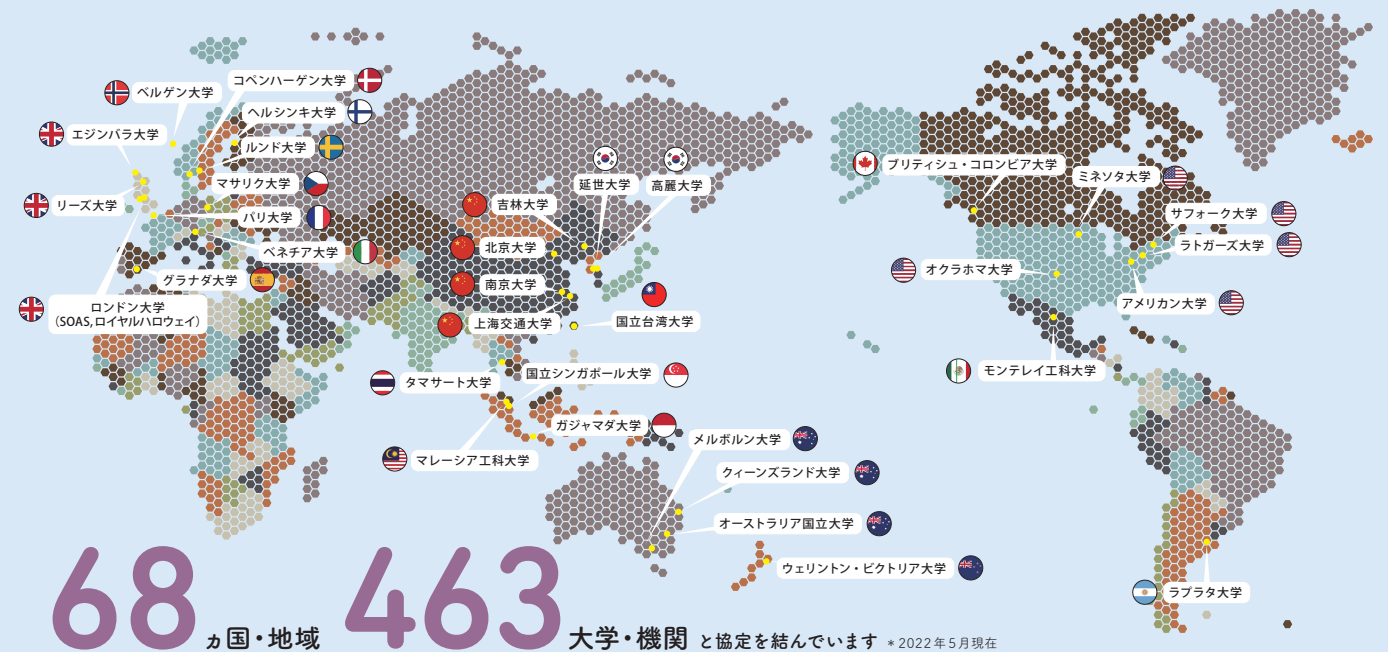
1セメスター留学プログラム

| 4ヵ月～6ヵ月

長期留学プログラムも視野に入れた語学力の向上と現地での外国語による講義の受講を目的としたプログラムです。語学レベルが中級程度の方を対象に、特定のテーマについての講義やフィールドワークを行います。

代表的な留学プログラム

- 立命館・カリフォルニア大学デービス校
留学期間：6ヵ月
留学先：アメリカ
- 立命館・ヨーク大学
留学期間：4ヵ月
留学先：イギリス
- 立命館・ワシントン大学
留学期間：4ヵ月
留学先：アメリカ
- 立命館・マラエ科大学
留学期間：4ヵ月
留学先：マレーシア



短期留学プログラム、オンライン留学プログラム

| 1週間～7週間

語学力の向上と異文化体験を主な目的としたプログラムです。海外への渡航経験が少ない方や語学レベルが初級程度の方を対象に、フィールドトリップ(オンライン留学プログラムを除く)や集中的な語学学習を通じて異文化理解を深めます。

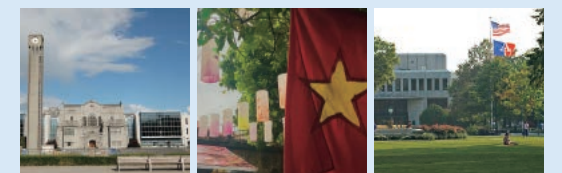
代表的な留学プログラム

- Global Fieldwork Project
留学期間：1週間
留学先：ベトナム、マレーシア、カンボジア、タイ、インドネシア、台湾
- 現地で学ぶ初修語セミナー
留学期間：4週間
留学先：台湾、中国、韓国、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ
- 異文化理解セミナー
留学期間：4週間
留学先：カナダ、シンガポール、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド
- 立命館×UC Davis Online Learning
～アメリカで学ぶSDGsとAcademic English～
留学期間：4週間
留学先：アメリカ(オンライン)

*上記の他、Advanced Global Fieldwork Project、海外スタディなどのプログラムも提供しています。

奨学金

立命館大学では、海外留学プログラムに参加する学生のみなさんを支援する奨学金制度があります。その1つである「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金(給付型)」は、参加費用の一部の補助を通じて、みなさんの海外留学プログラムへの参加・修了を奨励しています。



Voices

www.ritsumei.ac.jp/
ir/special/

読きは Web ページでご覧ください



国際関係学の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか？
ゼミ、課外活動など、最新の情報、生の声を Web ページで紹介しています。

国際関係学とは何か？

国際関係学で何を学べるのか、教員の研究をひととき、
豊富なエピソードで描き出していきます



IR STORY

教員から学生へのメッセージ



PEOPLE of IR

活躍する在学生・卒業生の
インタビューサイト



模擬授業・オンライン講義シリーズ



Kyoto

文化と歴史の街であり、ユニークなカルチャーが息づく大学の街である、京都。
ここにしかないキャンパス・ライフがあります。

Voice

山口 優花 さん
(IR専攻3年生)

衣笠キャンパスの魅力は、世界遺産に近いこと！講義の空き時間に金閣寺や龍安寺を訪れたり、学校帰りに北野天満宮に寄ったり。講義が午前中に終わった日には友達と清水寺へ遊びに行くこともあります。京都には、ここでしか体験できないキャンパス・ライフがあります。



Careers

VOICE

「スマートエアポート」で
空港のデジタルを推進

日本航空株式会社

富田 七星 さん

2018年国際関係学部卒業



就職活動中にインターンシップに参加し、エアラインに興味を持ったことをきっかけに現在の会社を志望しました。今は空港でのグランドスタッフの業務や、お客様のタッチポイントにデジタルを取り入れ、「スマートエアポート」を目指すプロジェクトのマネジメントを行っています。数十億円規模のプロジェクトを進めること、また自分が検討した搭乗ゲートが日本全国の各空港に配備されることを思うとやりがいを感じますし、仲間と議論し、少しずつ課題をクリアにしていくプロセスにおもしろさを感じています。

国際関係学部の4年間で思い出に残っているのは、ダンスサークルでの活動です。みんなで曲を選び、振り付けを考え、衣装を買いに行き、試行錯誤してきた時間の楽しさ、ステージで踊る時の高揚感と踊り終わった達成感は特別なものでした。ゼミナール大会でチームメンバーと徹夜で準備し、ゼミの仲間や先輩にアドバイスをもらって修正したり、こちらも学生時代のいい思い出です。ゼミでは毎週タイムリーな国際情勢などをテーマにディスカッションを行っていました。プロジェクトのマネジメントに必要な、整理して考え、それを周囲に伝える、というスキルはここで獲得したものだと思っています。

国際関係学部には、学びに対する意識、向上心の高い学生がたくさんいて、刺激になります。また、国際関係学は自分の好きな分野を柔軟に学ぶことができる学問です。現時点で何がやりたいかわからない、といった方にも実はおすすめ学部だと思います。

VOICE

フランスのスキンケアブランドを
世界に広めたい

日本ロレアル（株）

森川 美結 さん

2016年国際関係学部卒業



イギリス・マンチェスター大学に留学した際、社会人類学の授業で「一杯のコーヒーでも国ごとに売り方や顧客ターゲット層が違う」というトピックのディスカッションがありました。国や文化による販売方法・マーケティングの違いに関心を持ったことが、現在の会社を志望するきっかけになりました。

今の職場では、フランスのスキンケアブランドを日本で販売するためのデジタルマーケティングを行っています。同じ商品でも国によってプロモーションの方法やクリエイティブの作り方が違うので、フランスの本社やアジア圏の支社と連携しながら、日本のマーケットで売れるためのキャンペーンを考えます。

国際関係学部の4年間は、授業でも、学生間のコミュニケーションでも、「多様性」を学ぶことが多かったです。授業で「多角的な視点」を学び、ゼミでのディスカッションで「意見の多様性」を、生徒同士のコミュニケーションで「人生の多様性」を学びました。グローバル企業では、バックグラウンドも、価値観も様々なので、「多様性を受け入れる」という姿勢は重要です。多様であることを学び、違いをリスペクトし合う、多角的に物事を考える、という経験は、フランスや中国など各国の支社との話し合いをする上で役立っています。

国際関係学部は「何を学ぶか」ではなく「どう考えるか」を教えてください。その思考方法は、卒業後のどんなチャレンジにおいても、自分をサポートしてくれると思います。

進路・就職状況

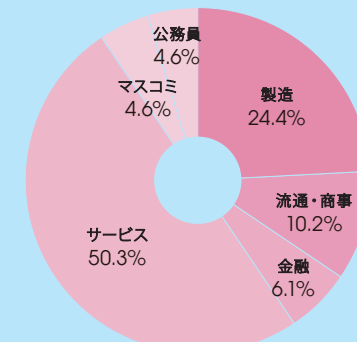
開設 30 年をむかえ、世界の第一線で 8,000 名以上の卒業生が活躍

世界に広がるネットワークを活かして、国際的な機関やメーカーなど企業の国際業務セクションに多く採用されています。
世界の有力大学院にも多数進学しています（ジョージ・ワシントン大学、オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンス大学など）。

2021年度卒業生 就職先一例

50 音順

(株) アイシン	(社) 国際経済労働研究所	(株) 日本製鋼所
アクセンチュア (株)	(株) サイバーエージェント	パナソニック (株)
アサヒ飲料 (株)	サントリーホールディングス (株)	阪和興業 (株)
アマゾンジャパン合同会社	塩野義製薬 (株)	PwC コンサルティング合同会社
(株) イシダ	双日エアロスペース (株)	日立建機 (株)
一般社団法人共同通信社	デサントジャパン (株)	(株) 村田製作所
岩谷産業 (株)	東洋紡 (株)	森永製菓 (株)
(株) NTT ドコモ	東レ (株)	ヤマト運輸 (株)
鹿島建設 (株)	有限責任監査法人トーマツ	郵船ロジスティクス (株)
キャノン (株)	独立行政法人国際協力機構	楽天グループ (株)
京セラ (株)	(株) 日本政策金融公庫	国家公務員一般職
キリンホールディングス (株)	日本電気 (株)	地方公務員 (上級職)



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎端数処理の関係で 100%にならない場合があります。